



『もっと！！本野通信』 No.129

諫早市立本野小学校長 永井 洋

交通安全 ～朝の登校の様子から～

特別な用事がない時以外は、朝7時20分頃から、「大久保商店前」・「ふれあい会館前」・「小学校入り口前」の3箇所のいずれかで子どもたちの登校を見守ったり、一緒に学校まで歩いたりしています。この3つのいずれかに信号機があると、安全指導もさらに効果が上がるのですが、みなさんご存じの通り、現在は、駐在所長さん、地域の交通安全指導の皆さん、保護者の皆さんによる、声掛けや交通整理に頼っている状況です。子どもたちによく身に付いてきたことと、もう少しのことを紹介しますので、ご家庭でも声掛けをお願いします。

【よく身に付いていること】

- 横断歩道の手前で立ち止まり、左右確認すること
- 車が止まったことを確認して、渡り始めること
- 指導をしている方の指示に従うこと



【もう少しのこと】

- 指導の方がいると、安心からか「立ち止まりや確認」がおろそかになること
- 手をしっかり上げること
- ドライバーの方の顔をしっかりと見ること

急いでいる時や、大人の指示がない時などは、特に「大丈夫だろう」という気持ちになってしまいがちなようです。逆に、大人がいる時でも安心感からか、確認が不十分になる時もあります。大人がいてもいなくても「しっかり確認、しっかり止まる」を実践してほしいです。また、「手を上げるや顔を見る」行為は、歩行者がいることをドライバーに知らせる大切なことだということを忘れないで、「自分の命は自分で守る」意識を高めていきたいですね。

1 学期も残り 20 日ほどです

早いもので、6 月も後半に入ります。学校では、1 学期のまとめや、安全教育の充実（水泳、交通安全など）に力を入れているところです。市内でも、子どもが関わる事故の報告があっているようです。安全対策はしっかり行います。

学習面では、その学年の 1 学期で学んだことの振り返りに力を入れ、夏休みにどのような学びに重点を置くべきかを職員間で研修しているところです。

～校長室の窓から～

6 月のことを水無月（みなづき）と呼ぶことは、皆さんご存じかと思いますが、なぜ雨がが多い時期なのに「みずなしづき」かと思ったことはありませんか？いろいろ諸説あるそうですが、次の二説が有力のようです。

【水の月】説

①水無月の「無（な）」は古語で、「ない」という意味ではなく、現代の「の」にあたる助詞の仲間だったそうです。そのため、「水無月＝水の月」と解釈する説。

【水が無い】説

②旧暦の6月は、現在の7月ごろにあたる真夏で日照りが続く月だったようです。暑さで田んぼの水が干上がってしまうことから、文字通り「水が無い月」と呼ばれるようになったと解釈する説。

「同じ読み方でも、それぞれ真反対の説が存在するんだなー」と、高校生の頃思ったことを思い出します。

わたしたちが学生だった頃は、「水無月は何月？」（その逆も）などのような問いが多かったですが、今の高校入試や大学入試では、「なぜ水無月と呼ばれるのでしょうか？あなたの考えを自由な発想で書きなさい。」と問われることもあるそうです。皆さんは、水無月から何を思い浮かべますか？